



東陽病院 院長 伊藤 文憲

光町のみなさんこんにちは。今回は病的な肥満である肥満症のお話です。飽食の時代となり肥満症が注目され、その薬の研究開発が盛んです。しかし、肥満症と肥満は別です。単なる肥満と言うだけで肥満症の治療薬を用いるべきではありません。

肥満症の評価は体重です。肥満の判定には国際的な基準であるBMI (Body Mass Index) が用いられています。BMIは体重(kg)を身長(m)の二乗で割ったものです。各種の疾患合併率の最も低いBMI値である22を標準体重とすることが提言されています。理想の体重である標準体重(kg)は身長(m)の二乗に22を掛けた値となります。

当初は肥満の判定はBMI22の+20%にあたる26.4以上でしたが、1999年に日本肥満学会が「新しい肥満の判定と肥満症の診断」を発表しています。ここでは肥満症とは「BMIが25以上の肥満に起因ないし関連する健康障害を合併するか、その合併が予想される場合で、医学的に減量が必要とする病態」となっています。

肥満に起因ないし関連し、減量を要する健康障害は10種あげられています。

①二型糖尿病または耐糖能異常②コレステロール値などが高い高脂血症③高血圧④高尿酸血症や痛風⑤心筋梗塞や狭心症等の冠動脈硬化症⑥脳梗塞：脳血栓症

健康への

メッセージ

シリーズ (131)

肥満症について

や一過性脳虚血発作⑦話題になっている睡眠時無呼吸症候群⑧肝臓への著明な脂肪沈着を来す脂肪肝⑨変形性関節症や腰椎症および⑩月経異常等です。

BMIが25以上で十種の健康障害がある場合と、健康障害を伴い易いハイリスク肥満は肥満症と診断されます。ハイリスク肥満とは内臓脂肪蓄積を伴う肥満を指し腹部のCT検査で診断されます。スクリーニング法としてウエスト周囲径を計測し、男性なら85cm以上、女性では90cm以上を上半身肥満の疑いとされます。CTにて内臓脂肪面積が100cm²以上が内臓脂肪型肥満と診断されます。

このようにBMIに加えて医師の診療により肥満症の診断がなされます。肥満症の治療法としては生活習慣の改善、食事、運動療法の励行が推奨されていますが、まず減量が最初で最善の治療法です。体重減少が必要であることを理解しながら、食事や運動療法では十分に体重を減らすことが出来ない肥満症患者に対して始めて肥満症の治療薬が用いられます。決して単なる瘦身に使用してはいけません。

肥満症の治療薬は現在日本には1つだけです。この薬は内服することにより脳細胞に影響して食欲抑制効果があり結果として減量が可能になります。このほかにも各種の治療薬の臨床開発治験が進行しており数年内に国内での市販が予定されています。

お知らせ

※相談窓口開催日17日(水) 午前9時～正午

※東陽病院の救急当番日は3日(水) 14日(日) 午前8時30分～午後6時

医師2名が待機。来院の際はお電話を ☎ 1335

パソコンによる 年賀状



作成講座



日時 12月2日(木) 午後1時30分～4時30分
会場 図書館2階学習室
対象者 町内在住・在勤の方を優先します。
定員 20名
申込み 11月16日(火)から図書館で受付します。
 定員になり次第締め切ります。
その他 受講料は無料。(フロッピーを各自1枚ご持参ください。)

冬の特別 おはなし会

ほんの



=町立図書館=
 ☎ 3311

楽しい劇や絵本の読み聞かせ
 を行います。

日時 12月11日(土) 午後2時～3時
場所 図書館2階ハイビジョンホール
定員 80名
申込み 受付は11月13日(土)から開始します。図書館カウンターまたはお電話でどうぞ。

休館日

11月8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)、12月6日(月)、7日(火)